

# 河井 勇人

ヴァイオリン



# タレイア・クアルテット

弦楽四重奏

弦楽四重奏



# 本堂 竣哉

ピアノ

# 大藤 莞爾

チェンバロ



三菱地所 presents



いまキラリと光る若手アーティストが開く「紀尾井 明日への扉」

——その向こうにある大きな未来と豊かな音楽の世界へご案内します。 協賛:三菱地所株式会社

「明日への扉」を常に叩きつづける  
若者たちの心の声を聞こえ  
に残った言葉は、夏の甲子園で優勝した仙台育英学園高校野球部監督の「青春って、すごく密なので」という、ストレートに訴えかけてくる言葉だった。合唱部でずっと過ごした私の青春も「密」だったと回想したが、一方でふと「青春って、まったく密ではないので」と心のなかで呟いた若者も多かったに違いないとも思った。  
密ではない青春。その代表が、ひとりで過去の傑作に向き合い続けている、音楽を志す若者たちだろう。譜面台に乗つけられた楽譜には自分の細かい書き込みがあり、それに従うも、それに抗うも、自分の判断に任されている。もちろん師との会話、同じ楽器を志している同世代のライヴアルとの会話もあるだろうけれど、音楽に向き合うときは、まず、ひとりで楽譜に向き合うという沈黙からスタートする。演奏家を志す若者にとっては避けられない運命だ。  
世界的なコンクールに出場していた若いピアニストたちの振る舞いをドキュメンタリーなどで観ていると、そこに同じ未来を夢見ている者どうしの連帯感を感じる合わざるを得ないアーティストの影を観てしまうのは、たぶん私が歳をとり過ぎたからなのだろう。しかし、その光と影のコントラストの中に、明日への扉が隠されているのである。

## 花開く日本の若い世代

いま日本の若い世代の音楽家たちは、世界的に見ても、非常にレベルの高い音楽性を持っている。それを証明してくれたのが、この「明日への扉」シリーズだ。2013(平成25)年度からスタートしたこのシリーズに登場した演奏家の顔ぶれを見れば、それがどれほどのレベルで花開いたかが分かる。そして、陸続と若い演奏家たちが登場して来ている。2023年度の「明日への扉」コンサートのラインナップがそれを証明してくれるだろう。

### 河井勇人 —ヴァイオリン—

まず、5月にはヴァイオリンの河井勇人が登場する。2002年生まれで、すでに国際コンクールで優勝し、海外オーケストラとの公演もスタートさせている逸材だ。ピアノに清水和音を招き、フランスのふたりの作曲家の重要なソナタに加え、モーツアルト、プロコフィエフのソナタ、そしてバッハの「シャコンヌ」を組み合わせた重厚なプログラムで、その演奏の中に光る新しい感性に期待したい。

### 大藤莞爾 —チェンバロ—

続いて、6月にはチェンバロの大藤莞爾が、チェンバロ黄金時代と言える18世纪バロックの名作を花束のように集め

たプログラムで演奏する。2005年生まれの彼は、2016年には長き伝統を持つオランダ・バッハ協会主催のバッハ全曲プロジェクト“All of Bach”的インヴェンション・プロジェクトのメンバーに選ばれ、ユトレヒトでの公開収録コンサートに出演している。コンクールにも入賞を重ね、巨匠スキップ・センペから絶賛されたと言う。YouTube上に演奏動画を数多く公開している点も、まさに新世代のアーティストとしての面目躍如というところ。古楽という言葉をトラッシュ・ユーポックのなかに投げ入れるようには、いまここに現れるチェンバロ音楽の傑作の魅力を教えてくれるに違いない。

### タレイア・クアルテット —弦楽四重奏—

少し時間が経いて、12月には弦楽四重奏のタレイア・クアルテットが登場する。この団体はサントリーホール室内楽アカデミーの第5期に在籍していた時から聴

いていたのだが、アカデミーを終えた後もアンサンブルの密度を高めて、成長し続けているグループである。彼女たちが選んだ「セリオーソ」「死と乙女」、そしてメンデルスゾーンの「第1番」は、弦楽四重奏團にとっては王道とも言えるプログラム。過去の名演とも現在の気鋭の団体とも比較されることを厭わない姿勢に、弦楽四重奏に賭けるスピリットが感じられると言いたい。

## 4公演セット券 好評販売中

第35回から第38回まで全4公演を同一座席でご鑑賞いただくセット券です。S席セット券はたいへんお得になっています。

### 4公演セット券

S席 10,000円 A席 2,000円

販売は5月19日(金)13時まで  
紀尾井ホールウェブチケットのみでお取扱い

### 各公演 単券

S席 3,000円 A席 500円

U29 S席 1,000円

「明日への扉」シリーズを聴く楽しさは、才能の発見ではなく、その才能が次にどんな扉を開けようとしているか、扉への彼ら彼女らのノックの音を聞き取る点にある。それは、すべての音楽をする人の心の鼓動と重なるはずである。  
（いま）を目指しよう。

文／片桐卓也（音楽ライター）

第38回  
本堂 竣哉(ピアノ)  
Shunya Hondo

2024  
2/22  
木  
19:00

[曲目]  
バッハ／ブゾーニ：前奏曲とフーガ変ホ長調  
『聖アン』BWV552  
バッハ：イギリス組曲第3番ト短調  
BWV808  
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第29番  
変ホ長調 op.106  
『ハンマークラヴィア』

10.27[金] 正午発売

第37回  
タレイア・クアルテット  
(弦楽四重奏)  
Thaleia Quartet

12/13  
水  
19:00

[曲目]  
ベートーベン：弦楽四重奏曲第11番  
ヘ短調『セリオーソ』  
メンデルスゾーン：弦楽四重奏曲第1番  
変ホ長調  
シューベルト：弦楽四重奏曲第14番  
二短調『死と乙女』

9.8[金] 正午発売

第36回  
大藤 莞爾(チェンバロ)  
Kanji Daito

6/8  
木  
19:00

[曲目]  
バッハ：イギリス組曲第2番  
イ短調 BWV807  
フランス組曲第4番  
変ホ長調 BWV815  
バルティータ第1番  
変口長調 BWV825 ほか

3.10[金] 正午発売

第35回  
河井 勇人(ヴァイオリン)  
Eugene Kawai

5/19  
金  
19:00

[曲目]  
モーツアルト：ヴァイオリン・ソナタ(第32番)  
変口長調 K.454  
ラヴエル：ヴァイオリン・ソナタト長調  
バッハ：シャコンヌ～無伴奏ヴァイオリン・  
バルティータ第2番 BWV1004  
ドビュッシー：ヴァイオリン・ソナタト長調  
プロコフィエフ：ヴァイオリン・ソナタ第2番  
ニ長調 op.94a

3.10[金] 正午発売

※公演開催についての最新情報は紀尾井ホールウェブサイトをご確認ください。

## 本堂竣哉 —ピアノ—

そして2024年2月になるが、東京藝術大学入学直後の2022年に第9回野島稔・よこすかピアノコンクールで第1位を獲得した注目のピアニスト、本堂竣哉が登場する。ベートーヴェンの大作『ハンマークラヴィア』(作品106)を選んだことにも驚くが、ブゾーニ編曲のバッハから始まり、同じバッハの『イギリス組曲』を並べていくという選曲のセンスに、すでに大胆さと繊細さを併せ持つ気鋭の意欲を感じる。それを真正面から受け止めたい。